

人類における関節リウマチの発生はいつか

首藤 敏秀 九州大学整形外科
(2000年、第1回博多リウマチセミナー)

現在我々が、日常診療で遭遇する関節リウマチ（以下RAと略す）という病気が、人類史上いつ頃から存在するかという問題は、RAの病因を考えていくうえで大変興味深い知見を与えてくれます。

古代人の人骨やミイラを材料に、古い時代の病気を研究する古病理学の文献によると、古代エジプトでは既に強直性脊椎炎、変形性関節症や痛風が存在していたといわれています。

例えば、**図1**は、紀元前2900年頃の古代エジプト人の3体の発掘標本ですが、脊椎の syndesmophyte（靭帯骨棘形成）や骨性強直が認められ、レントゲン像も強直性脊椎炎と区別できないと報告されています。（文献1）紀元前2900年から紀元200年に生存した人の骨から、少なくとも強直性脊椎炎と考えられるものが18体報告されており、この中には、仙腸関節の強直が、観察されたものもあります。

さて、“リウマチ”の語源は、“流れ”を意味するギリシャ語の“rheuma”に由来することは、よく知られておりますが、当時のヒポクラテス（Hippocrates, 460 - 377 BC）の考えによると、脳から“Phlegma”と称する粘液が身体の各所に流れていって、種々の病気を作るとされていたようで、必ずしも関節痛を呈する病気だけを意味している用語ではなかったようです。しかしながら、その時代でも既に、現代の痛風や強直性脊椎炎に相当すると思われる病気の記載が残っていること、また、前述したように、古代エジプト人の標本から、痛風や変形性関節症、強直性脊椎炎を煩っていたと考えられる人骨が見つまっていることから、これらの疾患は古代より存在していたことが伺えます。一方、RAに関しては、18世紀以前までは、RAとはっきりと断定できる人骨は、エジプト、ヨーロッパ、アジアでは発見されておられません。

“リウマチ”という用語を、今日用いられているように、関節関連の疾患としてはじめて用いたのは、バイヨー（Guillaume Baillou, 1558 - 1616）ですが、この中から、RA、痛風、リウマチ熱などを区別したのはシデナム（Thomas Sydenham, 1624 - 1689）で、現存する文書では、シデナム以前までは、RAを思わせる病気の記載はないようです。

興味深いことに、シデナムとほぼ同時代の17世紀の画家であるルーベンス（Pieter Paul Rubens, 1577 - 1640）は、彼の描いた絵のなかで、RAを思わせるような手指の関節が腫脹している人物像をかいています（**図2**）（文献2）。ルーベンスは晩年まで、RAの自然歴を思わせるように手指の関節が変形していく人物像も描いています（**図3**）。

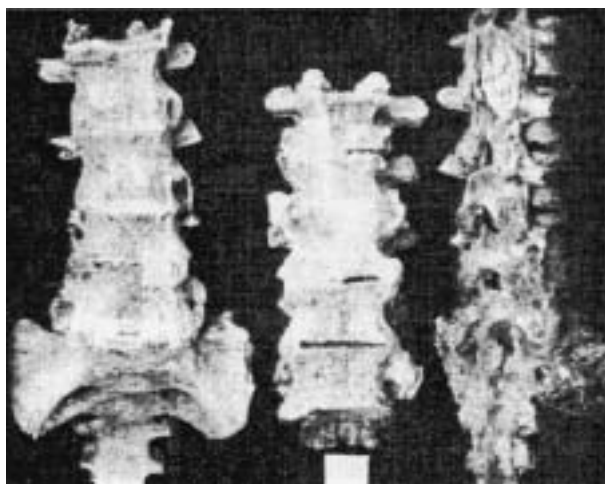


図1 紀元前2900年頃の古代エジプト人の3体の発掘標本で、脊椎の syndesmophyte や、骨性強直が認められ、強直性脊椎炎と考えられる（文献1より）。



図2 ルーベンスが描いたRAを思わせる手指の関節が腫脹している人物像、“Saint Matthew”（1609）。右の図は、右手の部分の拡大像で、第2、3指のMP関節が腫脹しているようにみえる（文献2より）。



図3 ルーベンスが描いた手指の関節が変形した人物像で、RAを思わせる。右図は左手の拡大像（文献2より）。



図4 ルーベンスの自画像。左手関節の腫脹や手指の変形の様子が描かれており、第4、5指の伸筋腱は断裂しているのかもしれない。ルーベンス自身が、RAに罹患していたことがうかがわれる。右の図は、左手の部分の拡大像（文献2より）。

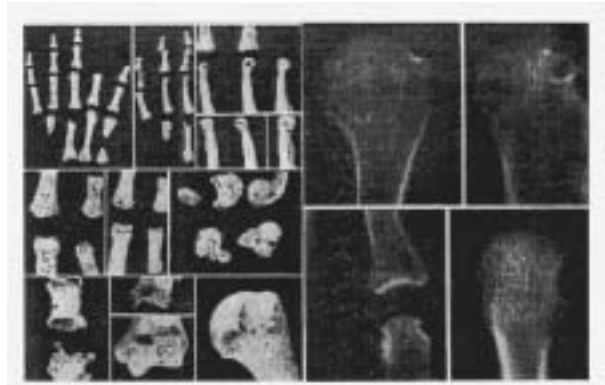


図5 3000－5000年前の古代インディアンの遺骨中に発見された、RAと一致する骨病変（文献3より）

また彼の自画像でも手関節の腫脹や手指の変形の様子が描かれており、彼自身が、RAに罹患していた可能性もあります（図4）。

このように17世紀のヨーロッパには、RAが存在していたと考えられます。しかし、なぜ、その頃のヨーロッパに、忽然とRAが出現したのかは、大きな謎です。当時の、ヨーロッパの環境に何らかの大きな変化があったのでは、と憶測され、15－16世紀にはやった新大陸（アメリカ）と旧大陸（ヨーロッパ）の間の大航海の影響ではとの説も唱えられていました。

1988年に、アメリカの有名な雑誌サイエンスに掲載された記事（文献3）は、この説を支持するものでした。すなわち、著者らは3000－5000年前の古代インディアン84体の遺骨を検索し、その中の6体にRAと一致する骨病変を見いだしたと報告したのです。示された骨のレントゲン像は、RAのそれとして矛盾しないもので（図5）、また罹患部位の分布も、現在のRAとよく一致していました（図6）。

もし、RAが、古代インディアンが在住していた新大陸の固有の病気であったとすると、この病気は、コロンブスによる新大陸発見（1492年）以降に、旧大陸に渡っていったものであり、これより以前に新大陸以外でRA様の骨病変が見つかっていないことや、RAを思わせる病気の記載がないこともうなづけます。これが本当であるとする、RAは、本来新大陸にあった微生物あるいはアレルゲン等が原因の疾患で、それが旧大陸に運ばれた結果、旧大陸に忽然とRAが出現した可能性も考えられます。RAの病因を考えるうえで大変興味深い発見といえるでしょう。



図6 3000－5000年前の古代インディアンの遺骨中に発見されたRA様骨病変の分布（文献3より）

【文献】

- 1) Ruffer MA and Rietti A : On osseous lesions in ancient Egyptoans. J Pathol Bateriaol 16 : 439-465, 1912
- 2) Thierry Appelboom et al : Rubens and the question of antiquity of rheumatoid arthritis. JAMA 245 : 483-486
- 3) Rothschild BM et al, Symmetrical erosive peripheral polyarthritis in the Late Archaic Period of Alabama. Science 16 : 1498-1501, 1988